

# 江戸時代の 東桑原

岡安家文書を中心に

平成18年 3月4日(土曜)～6月18日(日曜)

宮代町郷土資料館

開館時間 9:30～16:30 入館無料 / 休館日 月曜日・祝日の翌日

埼玉県南埼玉郡宮代町西原 289 ☎ 0480-34-8882

ホームページ <http://town.miyashiro.saitama.jp> メール [museum@town.miyashiro.saitama.jp](mailto:museum@town.miyashiro.saitama.jp)



日光御成道分間延絵図（東京国立博物館所蔵）

## 「あいさつ」

宮代町教育委員会では、平成二年度から一五年度にかけて宮代町史の編纂事業を実施してきました。その間、宮代町の歴史を語る上で必要な古文書の発見作業を随時行い、平成九年度には百間村折原静佑家文書や東条原岡安邦彦家文書など、江戸時代の名主家の文書が多量に発見され宮代町の歴史が少しずつ解明されてきました。今回の企画展の主要な部分を占める東条原岡安邦彦家文書は、その後、郷土資料館で整理され、平成一四年度には報告書が刊行されました。

宮代町郷土資料館では、この報告書刊行の際に調査・研究し明らかになった成果を、町民の方々に分かりやすく説明するため今回の企画展を計画しました。展示内容は、江戸時代の東条原村の出来事や村役人の変遷、農民の負担など当時の東条原の状況が分かるように展示いたしました。併せて、江戸時代以前の久米原村についても触れ、鎌倉街道から出土した遺物なども展示しています。是非ご覧下さい。

平成一八年三月四日 宮代町教育委員会教育長 桐川弘子

### ～ 凡例 ～

本書は平成一八年三月四日から同年六月一八日まで開催される企画展「江戸時代の東条原―岡安家文書を中心に―」の展示図録です。

展示の企画及び図録の執筆につきましては、当館学芸員河井伸一が担当し、編集及び表紙・ポスターデザインは、長谷川弘樹が担当致しました。なお、展示は資料館職員が協力して行いました。

本文中の敬称は省略させて頂きました。

図版の順序は展示順序を示すものではなく、図録構成も展示構成とは異なります。

本企画展開催にあたり、下記の方々に資料の提供、ご協力を頂きました。記して感謝申し上げます。茨城県立歴史館・岡安邦彦・折原静佑・国立公文書館・斉藤操・鈴木侑次郎・鈴木敏男・東京国立博物館・野口鈞治・蛭間三典・森山松年・鷺宮町立郷土資料館・鷺宮町鷺宮神社（五十音順・敬称略）

江戸時代以前の東条原は西条原と共に久米原と呼ばれていました。地形的には、大宮台地の北東部慈恩寺支台の縁辺及び沖積地に立地します。歴史的には、発掘調査によると縄文時代早期七〇〇〇年前の土器や平安時代の土師器が出土していますので、その頃には人々は生活していたと推定されます。その後、鎌倉時代になると鎌倉街道が造られました。古文書で確認できる「久米原」の初見は、延文六年（一三六一）の「市場祭文写」です。これには、武蔵国の足立郡、騎西郡、太田荘などにある市が記載されています。また、戦国時代末の天正一八年（一五九〇）に出された「小田原北条家印判状」にも久米原の地名が記されており、鷲宮神社（鷲宮町）の神領であつたことが分かります。その後、豊臣秀吉により小田原北条氏が滅び、徳川家康が江戸へ入府し久米原の領主も家康の家臣に代わりました。



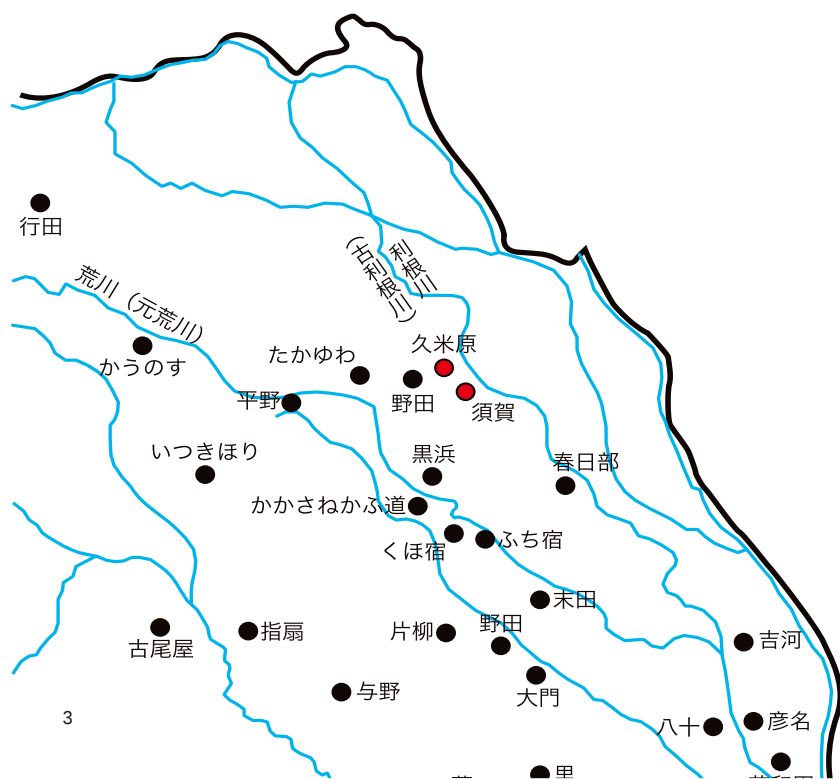
東条原宿屋敷遺跡の鎌倉街道沿いに検出された道路状遺構

鎌倉街道は、將軍と御家人とが主従關係を結び、鎌倉の非常時に馳せ参じるために造られました。鎌倉街道は、大きく上道、中道、下道に分かれています。東条原を通る街道は、中道（なかつみち）と呼ばれ、東北方面から古河（茨城県古河市）を経て、高野、須賀、久米原、高岩、野田、太田新井、岩槻、鳩ヶ谷、川口から新宿（新宿区）、戸塚（横浜市）を経て鎌倉に至りました。

宮代町の鎌倉街道では、発掘調査が二回行われています。いずれも東条原字宿屋敷で行われました。平成一四年度の発掘調査では伝承鎌倉街道沿いから、溝状の道路状遺構が検出されました。平成一七年の発掘調査では、厚さ約三〇センチに渡り造成した道路状遺構が発掘されました。



地下式坑出土 カワラケと土師器



市場之祭文にみられる地名



航空写真（昭和56年撮影）

## 久米原郷

延文六年（一三六一）の「市場祭文写」によると久米原に市が立っていたことが分かります。この場所については不明ですが、恐らく東条原鷺宮神社の門前市であったと推定されます。この門前市を中心に鎌倉街道に添って集落が営まれていました。発掘調査によると、倉庫的機能の方形竪穴遺構や墓地や倉庫ともいわれる地下式坑、井戸など集落と深い関わりのある遺構が検出されています。

鷺宮町鷺宮神社文書によると、鷺宮神領として「岩付領久目原之内」が確認できます。このことから、久米原郷の一部が鷺宮神社の神領であったことが分かりますが、他の部分は岩付城主の北条氏房領であったと推定されます。このように、室町・戦国時代の久米原郷は、鎌倉街道沿いの宿及び市場の機能を持つ郷村であったことが伺えます。

# 東条原村について

## 東条原と西条原

東条原村と西条原村は元々が一村でしたが、徳川家康の江戸入府の時、西条原が岩槻藩領となったため、事実上一村に分かれたものと推定されます。江戸時代前期の史料では、東条原を久米原、西条原を西原と記載されたものもあります。現在でも、地元の人は、東条原を久米原、西条原を西原と呼んでおり、江戸時代の伝統が伝えられていると考えられます。正式には、久米原村は明治初年までは一村でしたが、御三卿の一橋家領が小菅県西条原村、東条原村が佐倉県、浦和県となったため分村しました。

東条原村は、江戸時代初期の元和五年（一六一九）、天領の時に検地が行われ、三五〇石を数えました。その後、元禄三年（一六九〇）に再び検地が行われ、石高三九四石二斗一合で田高二四町八畝二九歩、畑屋敷高三五町七反七畝一八歩となりました。一方、西条原村は寛永五年（一六二八）岩槻藩主の阿部対馬守により検地が行われ、石高四七五石九斗七升を数えました。



東条原村の範囲



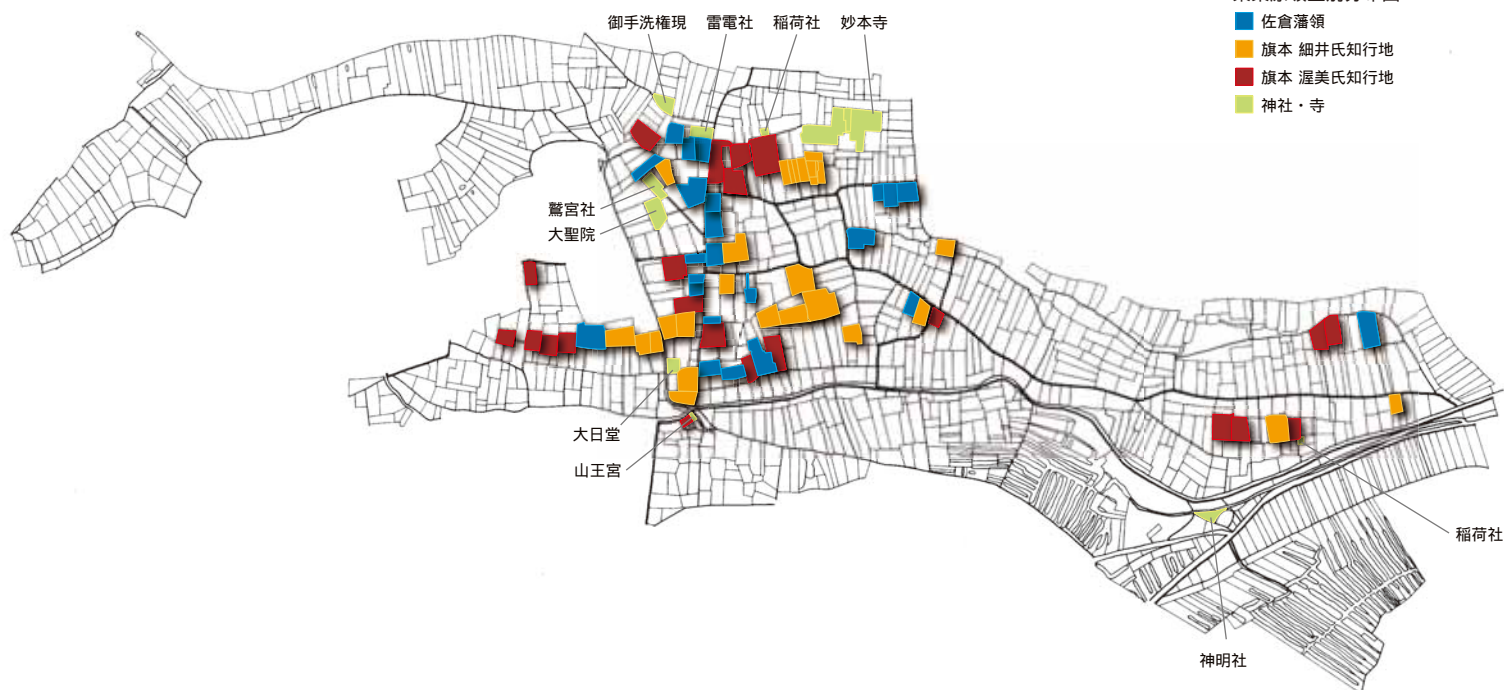
西条原村の範囲

| 字   | 佐倉藩 | 渥美氏 | 細井氏 |
|-----|-----|-----|-----|
| 宿屋敷 | 7   | 2   | 5   |
| 大崎  | 3   | 4   | 2   |
| 御手洗 | 3   | 1   |     |
| 込之前 | 1   | 5   | 2   |
| 前   | 7   | 3   | 8   |
| 前塚  |     | 1   |     |
| 渋谷  | 1   | 5   | 2   |

字領主別軒数



馬頭観音脇関棹



## 東条原村の領主

天正一八年（一五九〇）小田原北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされると、駿河から徳川家康が関東へ入国しました。この時、久米原村の一部（西条原村）と須賀村の一部は岩槻藩主の高力清長の支配下になったと推定され、残りの久米原村（東条原村）は天領に属しました。元和五年（一六一五）、天領であった久米原村（東条原村）は、百間村、須賀村、和戸村等と共に百間領五千石の検地が行われました。寛永元年（一六二四）には、旗本水野出雲守に東条原村、和戸村、蓮谷村合わせて千石が与えられました。

その後、東条原村は、寛文四年（一六六四）に旗本水野十郎左衛門（歌舞伎旗本奴白柄組で有名）が改易されたため、天領となり、元禄一〇年（一六九七）に一部の天領を残し旗本細井六郎兵衛と渥美九郎兵衛に分け与えられました。残された天領の東条原村も、元禄一六年に久喜藩領になり、その後、久喜藩領は宝暦一三年（一七六三）に佐倉藩堀田氏領となり、幕末を迎えました。



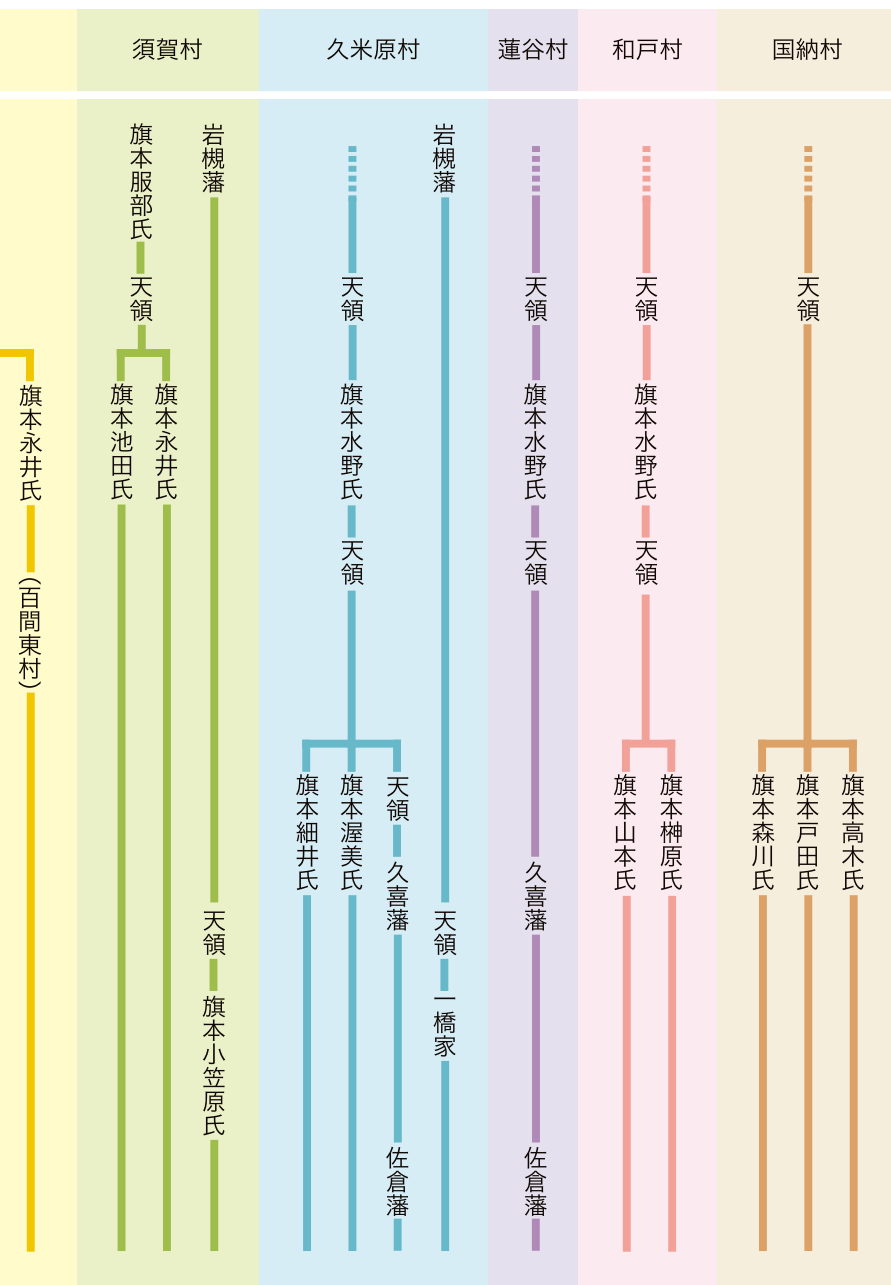
旗本水野家氏の知行地

## 名主と村役人

東条原村は、佐倉藩堀田氏（久喜藩米津氏）と旗本細井氏、旗本渥美氏の三家により支配されていたため、村役人はそれぞれの領主別に存在しました。村役人とは、一般的に名主・組頭・百姓代をいいます。名主は基本的には、村や領主ごとに一名でしたが、二名以上いる場合もあります。一八世紀後半の旗本細井氏の名主は二名いました。

村役人について確認できる最も古いものは、元禄

一三年（一七〇〇）の質地証文で名主彦兵衛、組頭半左衛門、清右衛門であります。どの領主に属していたのかは判断できません。次に確認できるのは、宝暦三年（一七〇六）の久喜藩領名主甚左衛門、組頭善兵衛・彦右衛門です。旗本細井氏知行地で確認できる最も古いものは享保五年（一七二〇）の質地証文で名主庄左衛門、組頭新助・清右衛門・善左衛門です。なお、江戸時代中期から明治初年に至るまで、助郷や用水組合、諸用向などについては三給（佐倉藩・旗本細井氏・旗本渥美氏）の村役人が年番で隔年ごとに勤めていたようです。



## 旗本細井氏知行地の名主・組頭

旗本細井氏の村役人としては、享保一九年

(一七三四)の笠原沼久米原村新田の案内人として確認できる岡安庄左衛門が、享保五年から天明五年(一七八五)頃まで名主役を勤めていることが確認でき、数代に渡り世襲していたものと推定されます。庄左衛門の分家岡安幸右衛門(岡安邦彦家)が名主として確認できるのは、延享三年(一七四六)からです。幸右衛門の分家岡安蔵次郎が名主を勤めていたのが確認できるのは、寛政九年(一七九七)から享和元年(一八〇一)までです。これらのことから、当初、庄左衛門一人で名主役を勤めていましたが、延享三年頃から二人の名主体制となり、その後、庄左衛門に変わり蔵次郎が名主役を勤める形で二人の名主体制が続いたと推定されます。しかし、蔵次郎の子である佐源太は名主役を勤めず、組頭役を勤め代々佐源太、清蔵と世襲しました。一方、幸右衛門はその後、幸右衛門、仙蔵、幸重郎(幸右衛門)、幸太郎と代々名主役を世襲しました。その他、斎藤利三郎も名主を勤めたことがあります。

組頭役では元禄三年(一六九〇)の検地の案内人であった斎藤清右衛門が享保六年頃から文化六年(一八〇九)頃まで代々組頭を世襲していました。善左衛門も享保五年から明和六年(一七六九)まで確認できます。その他、新助や吉左衛門、嘉右衛門、後に名主となった蔵次郎などの名前も確認できます。

その後、清右衛門の代わりとして岡安八郎兵衛が文化七年から天保三年まで確認できます。天保六年

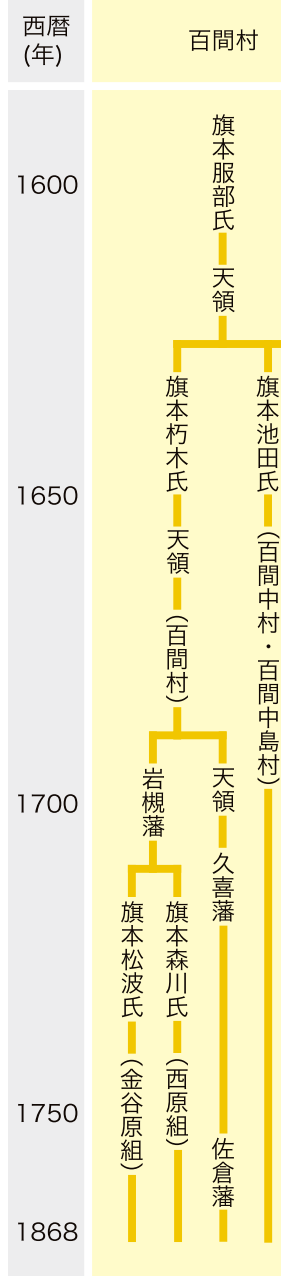
## 旗本渥美氏知行地の名主・組頭

(一八三五)以降、折原喜平太、弘化二年(一八四五)以降、折原又五郎が組頭役として確認できます。喜平太はその後、安政五年(一八五八)に子の喜太郎に組頭職を譲ります。又五郎は安政二年に名主代となり、名主幸右衛門の養子で名主役を継いだ幸太郎が離縁したことにより、慶応三年(一八六七)頃には名主となりました。元名主幸重郎(幸右衛門)の妻いその養子となった岡安幸右衛門が名主役に復帰するのは明治二年になってからです。

旗本渥美氏の村役人としては享保一三年(一七二八)に名主与兵衛が、享保年中では名主源兵衛、組頭孫兵衛が確認できます。孫兵衛は熊倉姓で、笠原沼久米原村新田の検地帳にも案内人として見られます。元文四年(一七三九)以降、孫兵衛、孫四郎と世襲し、天保一〇年(一八三九)頃まで名主役を勤めました。その後、天保一五年には、組頭役を勤めていた蛭間忠左衛門が名主として確認でき、弘化三年(一八四六)から安政六年(一八五九)にかけては、野口丹蔵・喜万が名主を勤め、慶応二年(一八六六)以降は、谷島惣兵衛が名主役を勤めました。その他、名主としては岡安太郎右衛門、組頭としては、蛭間忠左衛門、野口丹蔵、谷島惣兵衛、門井勘左衛門・園吉、松田玄徳、留五郎、吉兵衛、平六などが確認できます。

## 久喜藩・佐倉藩の名主・組頭

久喜藩・佐倉藩の村役人としては一八世紀代に確認できる名主は甚左衛門、貞右衛門、庄兵衛、伝六、要右衛門、七郎右衛門です。このうち、甚左衛門は元禄三年(一六九〇)の検地の案内人や享保一九年(一七三四)の笠原沼久米原村新田検地の案内人として確認できるため、開発地主の一人であると推定されます。森山要右衛門は、宝暦一三年(一七六三)と文化二年(一八〇五)で名主として確認できます。寛政九年(一七九七)には名主七郎右衛門、享和元年(一八〇一)には七郎右衛門の子宗右衛門が名主役を引き継いだようです。文化八年(一八一二)頃以降、野口吉右衛門が名主となつてからは、吉右衛門・吉五郎が名主役を勤め、幕末まで世襲しました。組頭としては検地帳の案内人として確認できる蛭間三郎左衛門・勘右衛門や彦右衛門の他、清八、善兵衛、友右衛門、市右衛門、後に名主を勤める吉右衛門などがいました。三郎左衛門・勘右衛門は江戸時代中期から幕末まで代々組頭役を世襲したものと推定されます。



字宿屋敷・字垵之前・字前付近の屋号



## 東条原村の戸数

東条原村の家数については、江戸時代初期から中期

については不明ですが、後期の文政二年（一八一八）

には旗本細井氏の所領で家数二〇軒が確認できます。

文政一二年では、東条原村全体で六五軒、人口三〇四

人であったことが分かります。天保三年（一八三二）

には旗本細井氏所領で一九軒、天保五年には旗本渥美



武蔵国埼玉郡久米原村数芝野検地帳

芝野一件済口証文



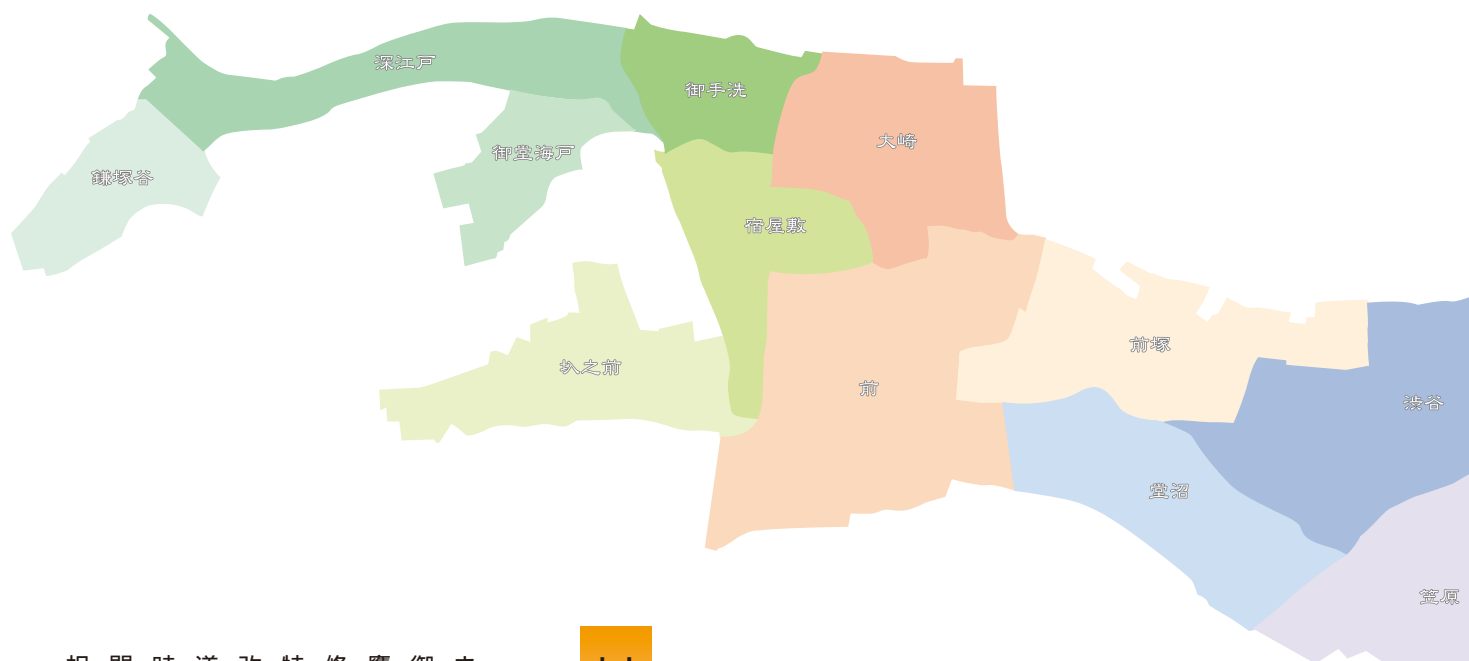
氏所領に二〇軒の家数がありました。天保一五年から弘化二年頃では、東条原村全体で五八軒であり、その内佐倉藩領では二一軒、旗本細井氏所領で一七軒、旗本渥美氏所領で二一軒となっています。

明治二年（一八六九）には大宮県となった旗本細井氏及び渥美氏の東条原村では、家数四四軒（内寺院三ヶ寺）、人口二二二人、明治三年の大宮県が改称した浦和県では家数四四軒（内寺院三ヶ寺）、人口二一四人でした。一方、佐倉県に属した東条原村は明治四年で家数二二軒でした。浦和県と佐倉県が合併し埼玉県となった東条原村では、明治五年では家数六二軒、人口三三九人、明治七年では戸数六一軒、人口三五五人、明治九年では、戸数六九戸（内社一戸、寺一戸）で人口三九九人でした。

## 東条原村の商い

江戸時代の人々は、農業の傍ら色々な商いを営んでいました。文政二年（一八二九）には、東条原村には少なくとも八軒が商いを営むか諸職人でした。これによると居酒屋が佐倉藩領の井上丑松、旗本細井氏の組頭岡安八郎兵衛、組頭岡安清蔵、髪結屋が旗本渥美氏の乙五郎、湯屋が佐倉藩領の岩次郎でした。その他、天保元年（一八三〇）には旗本細井氏の岡安富八が質屋や酒商を、弘化二年（一八四五）には旗本渥美氏の野口丹蔵が酒造を行っていたことが分かります。明治七年では、丹蔵が清酒造を行っていた他、斎藤与兵衛が濁酒造、松田文弘が医師、勇松が牛馬屋を営んでいたことが分かります。

現在、東条原には伝承鎌倉街道を中心に宿屋敷、前、杵之前、大崎、御手洗に屋号のある家が多いです。これらの内、その多くは江戸時代末期の農間余業として商いを始めたものと推定されます。



## 村民の負担

東条原村の人々は、年貢の他にも様々な負担がありました。用悪水の管理組合への負担や杉戸宿への助郷、御成道掃除組合や道普請の組合などです。この他にも鷹匠の宿泊代の負担、領主への賄金の献上、江戸屋敷修復や領主葬儀の上納金などもありました。

特に東条原村は江戸時代前期、旗本水野十郎左衛門が改易されたことにより、天領となったため、日光御成道の道普請や掃除組合の負担をさせられました。この時、岩槻藩領の西条原村や須賀村、旗本領であった百間東村、百間中村などは、天領ではなかったため、負担は免除されています。

溜沼争論絵図  
上段中央左寄りに「西原村」「久米原村」とある。



## 東条原村の年貢と減免願

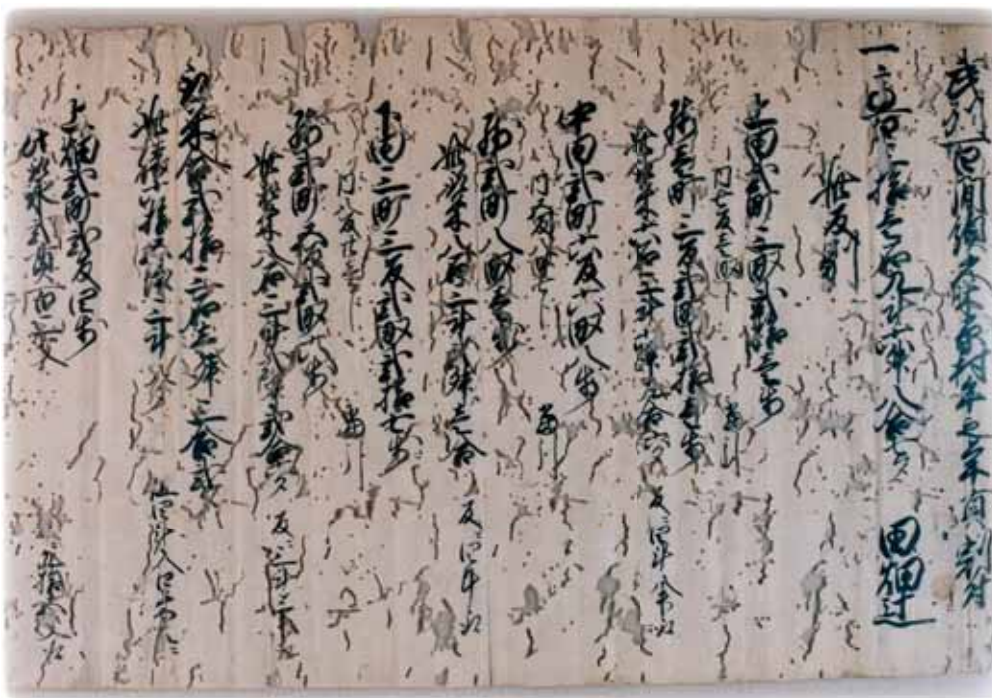
古文書が発見された旗本細井氏の東条原村の年貢は、通常米俵七〇俵から八〇俵で納めることが多いですが、元禄一年には五五俵、元禄二年には六三俵、享保二年は六二俵など凶作の場合、若干の減免が認められる場合もありました。また、大凶作であった元禄一四年には一〇俵、享保八年には二五俵と大幅に年貢の納入を免除されたこともありましたので、寛保二年や天明六年、安政六年、弘化三年などの利根川が決壊した際は、大幅な減免が認められていたと推定されます。

年貢減免願が確認できるのは、文政七年、天保四・六年、安政六年です。年貢減免の際は、先ず「大水押来届」を提出することで大水の状況を報告し、収穫後の一〇月に「年貢減免願」を提出し、年貢減免を認めてもらえるよう願いました。

なお、旗本渥美氏及び佐倉藩の東条原村については、古文書が残っていないため不明です。

| 文書番号 | 年月日            | 西暦   | 納米俵   | 数値(石)                     |
|------|----------------|------|-------|---------------------------|
| 147  | 元禄 11 年 10 月   | 1698 | 52 俵  | 19 石 2 斗 4 升 7 合          |
| 267  | 元禄 12 年 閏 9 月  | 1699 | 63 俵  | 22 石 1 斗 3 升 8 合 2 勺      |
| 182  | 元禄 13 年 辰 10 月 | 1700 | 75 俵  | 26 石 5 斗 6 合 9 勺 6 才      |
| 137  | 元禄 14 年 巳 10 月 | 1701 | 10 俵  | 3 石 5 斗 1 合 5 勺 7 才       |
| 136  | 元禄 15 年 午 10 月 | 1702 | 65 俵  | 23 石 1 升 3 合 2 勺          |
| 265  | 正徳元年 卯 9 月     | 1711 | 55 俵  | 19 石 4 斗 9 升 2 合 7 勺 4 才  |
| 268  | 正徳 5 年 未 10 月  | 1715 | 54 俵  | 19 石 2 斗 29 升 2 合 5 勺 2 才 |
| 705  | 享保元年 申 10 月    | 1716 | 50 俵  | 17 石 6 斗 5 升 7 合 8 才      |
| 159  | 享保 3 年 10 月    | 1718 | 67 俵  | 23 石 4 斗 8 升 8 合          |
| 707  | 享保 7 年 10 月    | 1722 | 81 俵  | 28 石 4 斗 7 升 3 合 2 勺      |
| 183  | 享保 8 年 10 月    | 1723 | 25 俵  | 8 石 9 斗 9 升 6 合 1 勺 1 才   |
| 154  | 享保 15 年 10 月   | 1730 | 100 俵 | 35 石 2 斗 1 升 9 合 9 勺      |
| 165  | 享保 16 年 10 月   | 1731 | 62 俵  | —                         |
| 184  | 享保 20 年 10 月   | 1735 | 80 俵  | 28 石 1 斗 8 升 2 合          |
| 163  | 元文 3 年 10 月    | 1738 | 50 俵  | —                         |
| 155  | 寛保 3 年 10 月    | 1743 | 103 俵 | —                         |
| 152  | 延享 3 年 11 月    | 1746 | 76 俵  | —                         |
| 125  | 宝暦 5 年         | 1755 | 85 俵  | —                         |
| 126  | 宝暦 6 年 10 月    | 1756 | 84 俵  | —                         |
| 124  | 宝暦 9 年         | 1759 | 94 俵  | —                         |
| 123  | 宝暦 10 年 辰 10 月 | 1760 | 97 俵  | —                         |
| 128  | 宝暦 12 年 10 月   | 1762 | 79 俵  | —                         |
| 129  | 宝暦 13 年 10 月   | 1763 | 94 俵  | —                         |
| 140  | 天明 5 年 10 月    | 1785 | 65 俵  | —                         |
| 140  | 寛政 3 年 6 月     | 1791 | 79 俵  | —                         |
| 139  | 寛政 4 年 1 月     | 1792 | 79 俵  | —                         |
| 257  | 享和 3 亥年 11 月   | 1803 | 79 俵  | —                         |
| 231  | 文化 7 午年 11 月   | 1810 | 79 俵  | —                         |
| 169  | 文化 8 年 12 月    | 1811 | 79 俵  | —                         |
| 545  | 天保 13 年 12 月   | 1842 | 79 俵  | —                         |
| 249  | 天保 14 年 12 月   | 1843 | 79 俵  | —                         |

旗本細井氏知行地の年貢変遷



久米原村年貢割付状

## 高札

高札とは、法度や掟書を板に墨で書き街頭に掲示したものです。江戸時代、幕府や領主は、領民に決まり事を知らせるため作成しました。これにより領民は、禁止されていることが分かったのです。テレビやラジオがない時代の重要な情報伝達の手段といえます。

高札の立てられる場所は高札場と呼ばれ、交通の要所や名主宅前などに設置されました。高札場は一般的に一枚の高札が単独で建てられていると思いますが、実際は、写真の馬籠宿や妻籠宿のように大きな覆い屋の下に複数の高札が纏まってあったようです。東条原村では、三人の領主（佐倉藩・旗本細井氏・旗本渥美氏）がいたため、三箇所が高札場があったと推定されます。

旗本細井氏領地の東条原村の高札は、岡安邦彦氏宅から六枚発見されました。キリシタン禁制や捨て馬の禁止、鷹場内での規定などが書かれています。

妻籠宿の高札場



馬籠宿の高札場



切支丹禁制高札



## 東条原村の出来事

村内では、様々な出来事が起こりました。鴻巣宿での揉め事から関東取締出役に召し捕えられたことや杉戸宿飯売女の一件に対する詫び状、年貢米が滞った事に対する村民同士の争い、土地や土砂をめぐる争い、脇差が捨てられていた一件、御用金の不正支出の疑いによる争いなど多数に及びます。

この他には、旗本細井氏所領の東条原村の村民が一四名で伊勢神宮へ参詣したり、鷲宮神社の鎮守神酒祭を行っていたことも史料に残されています。争論などがないと、古文書には残りませんが、村民の通常の生活については不明なことがたくさんありますが、様々なドラマがあったのでしょう。

往来手形





字洪谷 稻荷社跡



字宿屋敷 大日堂跡



字洪谷 神明社跡



字宿屋敷 地藏堂（郷地藏）



字大崎 妙本寺



字宿屋敷 雷電社跡



字坎之前 山王社跡



字御手洗 御手洗社跡



字大崎 稻荷社跡



字宿屋敷 鷺宮神社

字宿屋敷 大聖院

## 寺院と神社

東条原村には、字大崎に日蓮正宗の妙本寺、字宿屋敷に真言宗の大聖院、字宿屋敷に大聖院持の大日堂大福寺の三ヶ寺と、字宿屋敷に鎮守鷺宮神社、字渋谷に神明社、字御手洗に御手洗社、字宿屋敷に雷電社、字大崎に稲荷社、字渋谷に稲荷社の七社がありました。神社については、明治四年二月までは、全て確認できますが、その後、雷電社、神明社、御手洗社、山王社、字大崎の稲荷社は明治六年の大聖院廃寺に伴い、鷺宮神社へ合祀されたようです。なお、字渋谷の稲荷社は明治四〇年に鷺宮神社へ合祀されました。

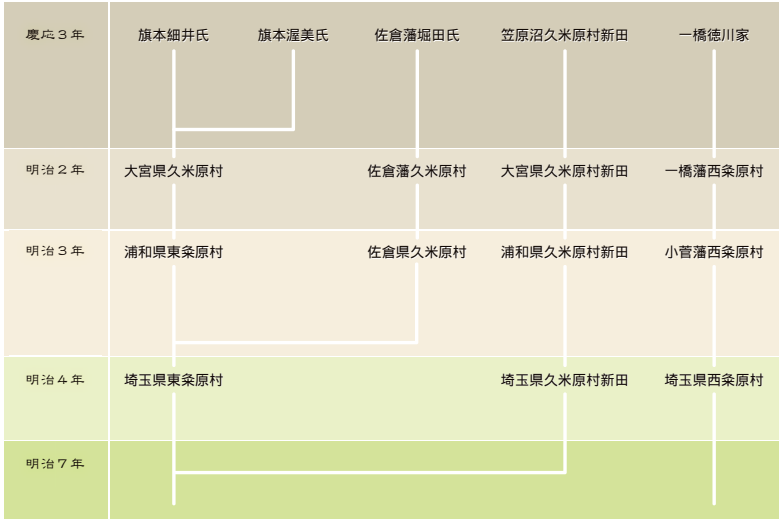
大聖院は、明治六年に廃寺となったことが確認できます。廃寺当時、本堂の他、諸堂舎一カ所、地蔵堂一カ所、物置小屋一カ所がありました。大日堂は明治三年の「宗門人別帳」で確認できますが、その後、大聖院と同様廃寺となったようです。大日堂は江戸時代、鎮守鷺宮明神の神酒祭の会合などでも使用されており、三給（佐倉藩・旗本細井氏・旗本渥美氏）村役人の打ち合わせなどの際、使用されました。



# 明治以降の東条原

明治維新により旗本細井氏と旗本渥美氏の東条原村は、明治二年に大宮県（のちの浦和県）の管轄となりました。一方、佐倉藩領の久米原村は明治四年七月佐倉県と改称しました。明治四年一月、浦和県・佐倉県とも埼玉県となり、東条原村は統合されました。一方、天領であった笠原沼久米原村新田は、大宮県・浦和県の変遷後、埼玉県に所属しました。その後、明治七年には、東条原村は笠原沼久米原村新田を吸収し、西条原村と伴に戸籍事務を統合しました。明治十二年、さらに爪田谷村を加え、明治十七年には西条原村、東条原村、爪田谷村、須賀村、和戸村、国納村が連合し、東条原村連合戸長役場が設置され、戸長に国納村の日下部泰助が就任しました。この時、西条原の宝光寺に役場が置かれました。その後、明治二十年、爪田谷村を除く東条原村連合戸長役場は合併し須賀村が誕生しました。

学校については、須賀小学校に残る「学校沿革誌」によると明治六年五月に西条原宝光寺を校舎に西条学校が開校したと記されますが、明治七年には、校舎が東条原の大聖院跡地に所在しています。明治一〇年には校名を久米原学校と改称し、明治一七年には和戸村の観音寺廃跡にあった和戸学校を統合しました。



東条原村藩県の変遷

| 年号     | 連合村                | 戸長・村長  | 副戸長（明治12年以降は筆生）                                   |
|--------|--------------------|--------|---------------------------------------------------|
| 明治7年4月 | 東条原村・西条原村・国納村戸長役場  | 渡辺多一   | 矢部造酒之丞・柿沼嘉七・岡安幸右衛門<br>・蛭間兵橘・谷島惣兵衛・折原平三郎<br>・日下部泰助 |
| 明治7年5月 | 東条原村・西条原村戸長役場      | 渡辺多一   | 川面宇三郎・柿沼嘉七・岡安幸右衛門<br>・蛭間兵橘・谷島惣兵衛・折原平三郎            |
| 明治12年  | 東条原村・西条原村・爪田谷村戸長役場 | 渡辺多一   | 岡安幸右衛門                                            |
| 明治15年  | 同                  | 岡安幸右衛門 |                                                   |
| 明治17年  | 東条原村連合戸長役場         | 日下部泰助  | 岡安幸右衛門                                            |
| 明治22年  | 須賀村                | 日下部泰助  |                                                   |

東条原村戸長・副戸長



久米原学校教室配置図（旧大聖院跡）

| 宅地番号 |     |     | 戸主      | 領主 | 歴代役職      | 前戸主        | 先祖・子孫      | 備考  |
|------|-----|-----|---------|----|-----------|------------|------------|-----|
| 埼玉県  | 浦和県 | 佐倉県 |         |    |           |            |            |     |
| 1    | 8   |     | 斎藤初五郎   | 細井 | 百姓代       | 要蔵         | 善兵衛・弥兵衛・平吉 |     |
| 2    | 7   |     | 岡安清蔵    | 細井 | 名主・組頭・百姓代 | 清蔵         | 蔵次郎・佐源太    |     |
| 3    | 10  |     | 斎藤てふ    | 細井 |           | 弥兵衛        |            |     |
| 4    | 11  |     | 岡安金次郎   | 細井 | 名主        | 庄左衛門       | 庄左衛門       |     |
| 5    |     | 81  | 松田仙之丞   | 佐倉 |           | 栄蔵         |            |     |
| 6    | 12  |     | 熊倉孫七    | 渥美 | 名主        | 勘次郎        | 孫兵衛・兵吾・孫四郎 |     |
| 7    | 13  |     | 森山長三郎   | 渥美 |           | 林蔵         |            |     |
| 8    | 14  |     | 熊倉藤三郎   | 渥美 |           | 孫兵衛        |            |     |
| 9    | 15  |     | 鷺谷彦太郎   | 渥美 |           | 彦太郎        |            |     |
| 10   | 16  |     | 諸星伝次郎   | 渥美 |           | 伊三郎        |            | 大工  |
| 11   | 17  |     | 内田鍋蔵    | 細井 |           | 長兵衛        |            |     |
| 12   | 18  |     | 斎藤民五郎   | 細井 |           | 嘉七         | 喜惣治        |     |
| 13   | 19  |     | 蛭間佐惣次   | 渥美 | 百姓代       | 浅右衛門       |            |     |
| 14   | 20  |     | 門井園吉    | 渥美 | 組頭・百姓代    | 勘太郎        | 勘兵衛・勘左衛門   |     |
| 15   |     |     | 野口周五郎持  |    |           |            |            |     |
| 16   |     | 87  | 吉沢藤右衛門  | 佐倉 |           | 藤助         |            |     |
| 17   |     | 83  | 吉沢長左衛門  | 佐倉 |           | 由五郎        |            |     |
| 18   | 21  |     | 門井又四郎   | 細井 |           | 勘太郎        |            |     |
| 19   |     | 82  | 斎藤清橘    | 佐倉 |           | 権次郎        |            |     |
| 20   | 23  |     | 蛭間米次郎   | 渥美 | 名主・組頭     | 忠左衛門       |            |     |
| 21   |     | 84  | 野口七蔵    | 佐倉 |           | 七左衛門       |            |     |
| 22   |     | 85  | 門井浅五郎   | 佐倉 |           | 清右衛門       |            |     |
| 23   | 22  |     | 斎藤与之吉   | 細井 | 百姓代       | 勘之丞        | 幸蔵・与助      |     |
| 24   |     | 86  | 吉沢喜重郎   | 佐倉 | 百姓代       | 勘作         |            |     |
| 25   |     | 88  | 門井伴蔵    | 佐倉 |           |            |            |     |
| 26   |     | 89  | 斎藤善吉    | 佐倉 |           | 善右衛門       |            |     |
| 27   | 24  |     | 大聖院     | —  |           |            |            |     |
| 28   | 25  |     | 鷲宮神社    | —  |           |            |            |     |
| 29   |     | 96  | 斎藤仙蔵    | 佐倉 |           | 仙次郎        |            |     |
| 30   | 26  |     | 小林喜之助   | 渥美 |           | 伊兵衛        |            |     |
| 31   |     | 92  | 諸星三橘    | 佐倉 | 百姓代       | 善五郎        |            |     |
| 32   |     | 91  | 諸星みや    | 佐倉 |           | 吉左衛門       |            |     |
| 33   |     | 90  | 井上佐文次   | 佐倉 |           | 久太郎        |            |     |
| 34   | 27  |     | 野口丹蔵    | 渥美 | 名主        | 吉兵衛        | 丹蔵         | 酒造業 |
| 35   | 28  |     | 谷島惣兵衛   | 渥美 | 名主        | 佐太郎        | 甚右衛門・重兵衛   |     |
| 36   | 29  |     | 野口源右衛門  | 渥美 |           | 武右衛門       | 源太郎        |     |
| 37   | 30  |     | 戸田弥三郎   | 渥美 |           | 周助         | 彦兵衛        |     |
| 38   | 31  |     | 斎藤清右衛門  | 細井 | 組頭        | 文之助        | 清右衛門       |     |
| 39   | 32  |     | 折原菊次郎   | 細井 | 名主・組頭・百姓代 | 又五郎・又市     |            |     |
| 40   | 33  |     | 妙本寺     | —  |           |            |            |     |
| 41   |     | 93  | 井上利橘    | 佐倉 | 百姓代       | 丑松         |            |     |
| 42   |     | 94  | 斎藤国五郎   | 佐倉 |           | 新次郎        |            |     |
| 43   |     | 95  | 斎藤惣右衛門  | 佐倉 |           | 惣七         |            |     |
| 44   |     |     | 谷島惣兵衛抱  |    |           |            |            |     |
| 45   |     | 77  | 森山千代松   | 佐倉 |           | 佐右衛門       |            |     |
| 46   | 34  |     | 戸田栄吉    | 細井 |           | 伊右衛門       | 源四郎        |     |
| 47   | 41  |     | 岡安由蔵    | 渥美 | 名主        |            | 太郎兵衛・太郎右衛門 |     |
| 48   | 42  |     | 野口権右衛門  | 渥美 |           | 新吉         |            |     |
| 49   |     | 75  | 野口周五郎   | 佐倉 | 名主・組頭     | 吉右衛門       | 吉五郎        |     |
| 50   | 43  |     | 小船仙松    | 細井 |           | 彦八         |            |     |
| 51   | 40  |     | 折原伝次郎   | 渥美 |           | 忠蔵         |            |     |
| 52   | 39  |     | 折原喜太郎   | 細井 | 組頭        | 喜平太        | 平三郎        |     |
| 53   | 38  |     | 鷺谷彦左衛門  | 渥美 |           | 初五郎        |            |     |
| 54   | 37  |     | 森山甚太郎   | 渥美 |           | 甚兵衛        |            |     |
| 55   | 36  |     | 山田治右衛門  | 渥美 |           | 半右衛門       |            |     |
| 56   | 35  |     | 井上軍次郎   | 細井 |           | 茂兵衛        |            |     |
| 57   |     | 76  | 森山貞次郎   | 佐倉 |           | 辰五郎        |            |     |
| 58   | 1   |     | 岡安四郎吉   | 細井 | 組頭        | 八郎兵衛       |            |     |
| 59   |     |     | 岡安幸右衛門持 |    |           |            |            |     |
| 60   | 2   |     | 岡安幸右衛門  | 細井 | 名主・百姓代    | 幸重郎        | 幸右衛門       |     |
| 61   | 3   |     | 斎藤与三郎   | 細井 | 名主・百姓代    | 利三郎・利八・与兵衛 |            |     |
| 62   |     |     | 岡安清蔵抱   | 細井 |           |            |            |     |
| 63   | 4   |     | 岡安喜右衛門  | 細井 |           | 留吉         |            |     |
| 64   | 5   |     | 松田文弘    | 渥美 | 組頭        | 玄理         | 玄徳         | 医師  |
| 65   |     | 78  | 蛭間兵橘    | 佐倉 | 組頭        | 三郎左衛門・勘右衛門 |            |     |
| 66   | 6   |     | 森山勇吉    | 渥美 |           | 次郎兵衛       |            |     |
| 67   |     | 79  | 森山栄蔵    | 佐倉 |           | 松五郎        |            |     |
| 68   |     | 80  | 森山金平    | 佐倉 | 名主・組頭・百姓代 | 要右衛門       |            |     |
| 69   |     |     | 大久保作次郎  | —  | —         | 安蔵         |            |     |
| 70   |     |     | 野口権松    | —  | —         | 吉右衛門       |            |     |
| 71   |     |     | 小船角蔵    | —  | —         | 仙松         |            |     |
| 72   |     |     | 蛭間与吉    | —  | —         |            |            |     |
|      | 9   |     | 大福寺     | —  |           |            |            |     |

明治初期の東条原村宅地表

## 展示品リスト

| 資料<br>番号 | 資料                | 所蔵者等     |
|----------|-------------------|----------|
| 1        | 市場之祭文(写真)         | 国立公文書館   |
| 2        | 北条家朱印状(写真)        | 鷺宮町鷺宮神社  |
| 3        | 在地系播鉢(平成14年度)     | 宮代町教育委員会 |
| 4        | 土師器(平成14年度)       | 宮代町教育委員会 |
| 5        | 常滑産甕(平成14年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 6        | 中国竜泉窯産青磁(平成14年度)  | 宮代町教育委員会 |
| 7        | 瀬戸産播鉢(平成14年度)     | 宮代町教育委員会 |
| 8        | 瀬戸美濃産天目茶碗(平成14年度) | 宮代町教育委員会 |
| 9        | カワラケ(平成14年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 10       | 内耳土鍋(平成14年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 11       | 瀬戸美濃産志野皿(平成14年度)  | 宮代町教育委員会 |
| 12       | 瀬戸産皿・碗(平成14年度)    | 宮代町教育委員会 |
| 13       | 墨書カワラケ(平成14年度)    | 宮代町教育委員会 |
| 14       | 五輪塔水輪(平成14年度)     | 宮代町教育委員会 |
| 15       | 縄文土器(平成17年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 16       | カワラケ(平成17年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 17       | 常滑産甕(平成17年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 18       | 在地系播鉢(平成17年度)     | 宮代町教育委員会 |
| 19       | 内耳土鍋(平成17年度)      | 宮代町教育委員会 |
| 20       | 溜沼争論絵図            | 折原静佑     |
| 21       | 日光海道助郷帳(写真)       | 蛭間三典     |
| 22       | 西条原村明細帳(写真)       | 茨城県立歴史館  |
| 23       | 用水掛渡井関枠等御普請取替一札   | 岡安邦彦     |
| 24       | 相給出入一札            | 岡安邦彦     |
| 25       | 名字帯刀仰付状           | 岡安邦彦     |
| 26       | 組頭仰付願             | 岡安邦彦     |
| 27       | 名主幸十郎改名願          | 岡安邦彦     |
| 28       | 名主役跡役仰付願          | 岡安邦彦     |
| 29       | 村方諸帳面預一札          | 岡安邦彦     |
| 30       | 巢鳥殺生禁止一札          | 岡安邦彦     |
| 31       | 引取一札              | 岡安邦彦     |
| 32       | 諸職人規定             | 岡安邦彦     |
| 33       | 遺跡相続済口証文          | 岡安邦彦     |
| 34       | 質地証文              | 岡安邦彦     |
| 35       | 百姓出走届             | 岡安邦彦     |
| 36       | 酒造屋敷相直一札          | 岡安邦彦     |
| 37       | 送り一札              | 岡安邦彦     |

[illegible]

発行 宮代町郷土資料館  
埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地  
TEL 0480-34-8882  
FAX 0480-32-5601  
<http://www.town.miyashiro.saitama.jp>